

「みて ふれて 学ぶ」 チャレンジ UP 大津野っ子！

福山市立大津野小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 自然 交流 勤労生産

体験活動場所・宿泊場所 山県郡北広島町
芸北文化ランド・民泊

【学校紹介】

○本校は開校 141 周年を迎える歴史のある学校で、福山市の東部、ほぼ岡山県との県境に位置している。

学校周辺は田畑も残っているが、多くは住宅地や商店、西日本随一の規模を誇る J F E 等の工場があり、市街化が進んでいる。もともと海の近くだったこともあり、常夜灯や城跡、貝塚、船着き場跡などの学習素材が点在して残っている。

そして、保護者は地域の学校教育に対する関心が高く、環境整備や教育活動へのボランティア参加など協力的である。

また、公民館を中心とした地域行事も活発に開催されている。しかし、児童の実態として、郷土に対する関心や地域行事への参加率が高くないという課題もある。

本校では、ここ 5 年間「確かなことばの力を育てる授業の創造」を研究主題とし、ことばの教育を大切にしたい授業改善に取り組み、国語科で習得したことばの力を他教科等に広げ、確かな学力の向上と豊かな心の育成に取り組んでいる。

昨年度までは、福山市内での宿泊体験活動を 1 泊 2 日で実施してきた。今年度はさらに、児童の自立心や自主性、コミュニケーション能力を育てるといふねらいを達成させたいと、3 泊 4 日の北広島町での宿泊体験活動を実施した。

○校長名：岡 裕基

○児童数（学級数）：307 名（14 学級 特別支援学級を含む）

○所在地：福山市大門町大字日之出丘 3043 番地

○電話番号：084-941-1002

○URL：<http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/shou-otsuno>

【体験活動のねらい】

○3 泊 4 日の体験活動を通して、児童の自立心や自主性、コミュニケーション能力を育てる。

○交流地域の人々との交流を通して、自他のよさを発見し合い、自己肯定感を高める。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
5月	<事前学習> ○4年生の社会科学習「わたしたちの県の自然や産業と人々のくらし」を想起し、宿泊先の「ひと・もの・自然」について事前学習する。	2	社会科	学校	担任



実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
6月 7月	○集団や社会に対する意識高揚を図るため、道徳の時間において「進んで参加」「役割の自覚」「協力」「責任」について学習する。	2	道徳	学校	担任
8月 24日 ～ 27日	<宿泊体験活動> ○川遊び ○キャンプファイヤー ○りんご作業体験 ○絵手紙づくり ○田舎暮らし体験 ○登山体験 ○竹細工体験・そうめん流し ○南方小学校との交流 ○奉仕活動	24	学校行事	山県郡 北広島町内	担任 本校職員 体験活動 指導員 地元ボラ ンティア
9月	<事後学習> ○お礼の手紙を書く。 ○国語科教材 「活動を報告する文章を書こう」で学習したことをもとに、集団宿泊活動の活動報告を書く。	1 5	国語科 国語科	学校 学校	担任 担任
10月	○成果発表会の計画 パネル・資料作成	10	総合的な学習 の時間	学校	担任
9月 10月 3月	<成果発表会> ○活動報告書を通して、宿泊体験活動の様子を発表する。 ○宿泊体験活動を含め、1年間の総合的な学習の時間で学んだことを発表する。	(2回) 2	児童朝会 総合的な学習 の時間	学校 学校	担任 担任

【体験活動の概要】

<清流体験>…「自然」

○『清流の家』にて川遊びの体験をした。住宅に囲まれた地域で暮らす本校児童にとって、豊かな自然環境の中での川遊びは興味深いものであった。水遊びだけでなく、カニや蛙、魚を捕まえ、時間を忘れて自然と楽しむことができた。



○初日の体験活動では、自分が楽しむことに熱中し過ぎ、あいさつができないという場面がみられた。早速、全体指導で問題提起するとともに、臨時班長会を開き、リーダーとして望ましい行動について話し合わせた。その結果、班長が代表してお礼のあいさつをしたり、使用した部屋の掃除や点検をしたりして、リーダーとしての意識を高めることに取り組んだ。このことをきっかけに、あいさつや片付けなど、児童相互で声かけができるようになった。

<田舎暮らし体験・南方小学校との交流>…「交流」

○2～3人のグループに分かれた民泊体験では、家族の一員として迎えていただいた。田舎暮らし体験では、日頃体験できない様々な活動(柏の葉を採取しての柏餅づくり、冬野菜の植付、山羊や豚や牛などへのえさやり、夜空観察、神楽鑑賞、薪割り、かまどごはん、夕食づくり等)をすることができた。また、民泊先の方々の優しさに触れ、これまでにない体験を通して思いがふくらむことで、進んでコミュニケーションをとることができた。



冬野菜の植付

○南方小学校との交流では、南方小学校全校児童による「よさこいソーラン」の発表を鑑賞することができた。



涙・涙のお別れ

また、民泊家庭の方々も加わってのゲームや、竹細工体験、そうめん流しなどを通して、体も心も触れ合い、家族のような時間を過ごした。

最後のお別れ会交流会では、感謝の気持ちを込め、『語り合おう』の歌のプレゼントを行うとともに、4日間の感謝の気持ちを色紙に表しプレゼントした。3泊4日の体験活動を通して、達成感や充実感やありがたさを実感し、涙、涙の感動的なお別れ会となった。

<奉仕活動>…「勤労」

○民泊家庭の皆さんやそのご近所の方々など、すべての「人」や「地域」に受け入れられたことを体感した児童は、感謝の気持ちを込め奉仕活動に取り組んだ。お抹茶で接待しようと思っただけで用意していたグループもあれば、民泊中に何をするか相談をしたグループもあった。事前学習で「奉仕活動とは何か」「例えば何ができるか」などの動機づけのみを行い、時と場を考えて判断し、行動できるようにしていたのが効果的だった。

【体験活動の効果を高める事後学習】

○国語科の「活動を報告する文章を書こう」では、体験活動をふりかえり、発表内容をまとめて、全校児童に発表しようというねらいで単元構想を立てた。北広島で体験したことを、事実にもとづいて、読む人や聞く人に分かるように報告しようと取組みを進めた。時系列にまとめることに加え、印象的な場面を詩や作文に表現することにも挑戦した。

【児童作品】
牛と仲良しに

えさを投げ込むと、
舌で食べてしまった
手でやると、
ベタベタ ザラザラの舌が
私の手をまきこんだ
服のすそで、手についたよだれを
はらっていたら、
となりの牛も
ちようだと、鼻息をかけてくる
順番に投げこんだ
なれたかな
さわりにいくと
首をふりまわして去っていった
次の日
そっと手をのぼしてみた
牛はもたれかかるように
顔を近づけてきた
ふれることができた
もっといけるかと思
いほほや頭をなでまわした
とてもあたたかく
気持ちよかった

— 第十一回木下夕爾賞 —
小学校高学年の部 優秀賞

○成果発表会では、体験や交流地域の人たちとのかかわり合いの中で学んだことを、全校(児童朝会)・保護者(参観日学年懇談会)・地域(「総合的な学習の時間」学習発表会)へ発表したり、北広島町へ発信したりすることを通して、「大津野」のよさを再発見することができた。



【交流先や施設等との連携】

事前

- 北広島町へ現地視察(6月9日)
- 児童健康カード及びアレルギー調査(動物・環境・食物)
- 児童自己紹介カード(写真・児童からのメッセージ付)を民泊家庭へ送付
- 緊急時対応、職員体制、民泊家庭への巡回、児童の送迎等については、電話やメールで随時打合せ(北広島町企画課職員・関係施設職員・体験活動指導員の方々と)

活動中

- 児童の体調・状況把握、次の活動の段取り・打合せ等については、北広島町企画課職員・関係施設職員・体験活動指導員の方々とその都度連携
- 活動の様子を北広島町のホームページでその日のうちに情報発信(本校保護者に活動の様子が伝わり、安心感・信頼感に)

事後

- 民泊家庭等へのお礼の手紙
- りんご作業体験で作業したりんごを届けていただいた際の交流(「児童手作りの横断幕」と「歌」で歓迎・お礼)
- 体験や交流地域の人たちとのかかわり合いの中で学んだことを北広島町へ発信

【評価の工夫】

○事前アンケートを分析し、本校の課題である5つの項目(だれとでも仲良くできる。自分とちがう意見や考えを受け入れることができる。決まりやルールを守ることができる。自分のいいところがある。相手の立場になって考えることができる。)を設定した。活動ごとに振り返りを行い、自己評価(4段階)・感想から改善点が見取れるように工夫し、次の日の活動に生かせるように指導した。

振り返りカード
(自己評価)
※本校の課題である
5項目を設定

その日の活動を
振り返り、次の日
のめあてを具体的に
書いている。

ふりかえりカード 8月25日 活動内容(田舎暮らし体験)					
	よくできた	できた	あまりできなかった	できなかった	
1			○		
2		○			
3		○			
4		○			
5	○				

○分かったことや感じたことを書きましよう。

田舎ぐらしも、体験してみて、こまは、福山とちがって、りんごの物(やい)がたぐさあるなと思いましたが、自分たちでやいを、しゅかくして、せめて、自分たちで、全部、作ると、やりがいがあるなと思いました。1日目(田舎)も楽しかったです。○次にがんばることを書きましよう。

次も、あと1日、田舎ぐらしも体験することができると、次も、もっと、きょうだいのほうに、2人の女の子とあそびたいです。

自分の地域との違いから、交流地域の良さを発見することができている。

夕食作りで自分の役割を果たすことを通して、「やりがい」を感じたことを書いている。

【安全面の配慮事項】

- 現地視察（行動範囲・危険箇所等の確認）
- 緊急時連絡マニュアル作成（医療機関・消防署・警察署・北広島町役場等の連絡先）
- 引率者による打ち合わせ（内容確認・役割分担・緊急時対応・児童の健康調査等の確認）
- イベント共済への加入
- 参加児童の健康診断状況把握（健康カードによる持病や服薬、アレルギー等の調査実施）
- 熱中症対策
 - ・水分補給（宿泊場所・民泊先でのお茶の準備、登山時はペットボトルを緊急車両に積載）
 - ・塩飴配給
 - ・活動中、活動後の休憩時間の確保
- 緊急車両の待機
- 民泊家庭での児童の状況把握
 - ・2日間で全民泊家庭を訪問，2日目の夜は分担して学校職員から民泊家庭へ電話
 - ・緊急時…民泊先 → 北広島町担当者 → 学校職員

【体験活動の成果と課題】

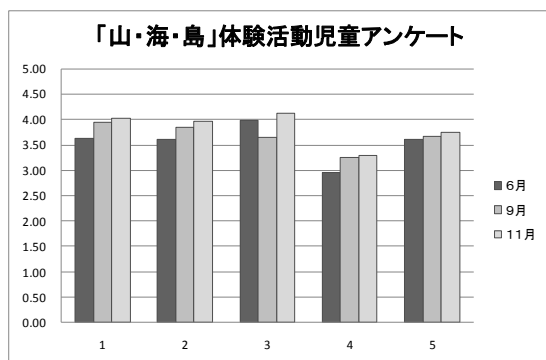
○児童アンケート結果から、事前（6月）と成果発表後（11月）を比較すると、本校児童の課題であった5つの項目の全てが上昇していた。特に体験をふり返り、「どこでどんな人が支えてくださったのか」「家族がどんな気持ちで送り出してくださったのか」を考え学習を進めることで、本校児童の課題である「自己肯定感」「思いやり」「公德心」の肯定的評価が高まっていた。

次年度以降も、「やってよかった」「自分は成長した」ということが実感できるような体験活動・学習活動に取り組んでいく。

- 保護者アンケートで、指標「体験活動を通して子どもが成長したと思う」の数値が、成果発表後（11月）に下がっていた。体験活動での学びや成果を、体験活動後の行事や学習活動につなげて指導を継続させる必要がある。3月に実施する「総合的な学習の時間」の発表会で、児童の成長を保護者に改めて伝えていく。

<児童アンケートより>

番号	質問項目	6月	9月	11月
1	だれとも仲良くできる。	3.63	3.95	4.02
2	自分とちがひ意見や考えを受け入れることができる。	3.60	3.83	3.97
3	きまりやルールを守ることができる。	3.98	3.65	4.12
4	自分のいいところ分かる。	2.95	3.25	3.28
5	相手の立場になって考えることができる。	3.60	3.67	3.75



<保護者アンケートより>

番号	質問項目	6月	9月	11月
1	だれとも仲良くできる。	3.62	3.62	3.83
2	自分とちがひ意見や考えを受け入れることができる。	3.12	3.25	3.20
3	きまりやルールを守ることができる。	3.75	3.87	3.68
4	相手の立場になって考えることができる。	3.05	2.78	3.37
5	体験活動を通して子どもが成長したと思う。		3.80	3.70

